

公表

事業所における自己評価総括表（児童発達支援）

○事業所名			
○保護者評価実施期間	令和8年4月1日		～ 令和8年4月30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 5
○従業者評価実施期間	令和8年4月1日		～ 令和8年4月15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数) 2
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年5月11日		

○分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	知的に重度、ボーダー、身体障がいなどジャンルを問わず同じ場所を共有している。多くの児童同士がかかわりを持つ中で、関係の幅が広がる。	行動制限とはできるだけ行わず、想いのままに過ごしていただく。もちろんケガやトラブルに発展内容見守りは行い、必要な時は介入するが、不要な介入や行動制限はしないようにしている。また、集団での行動を強要せず、それぞれのニーズに合わせて対応している。	環境的にも、プログラムもさらなる個別化ができればいい。また、スタッフの専門知識、スキルの向上が必須。
2	環境的に周囲に大きな公園があり、草木に触れたり、体を動かすのに適した環境がある。	集団（ニーズが合う者同士）行動も促しつつ、さらなる個別化も必要。	スタッフの専門知識、スキルの向上が必須。
3			

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	身体、知的、ボーダーとあらゆるジャンルの児童がいる為、プログラムの構築、共有スペースでの過ごし方など、バランスをとることが非常に難しい。	個別化と集団のバランスをとることが環境的にも難しく、ワンフロアですべての児童を見なければならぬ。特に重度の知的、自閉症児に対しての支援に関して、限界を感じている。	カテゴリーによるフロアを分ける必要があると、法人と話を重ねているが、人材確保、資金面において現実的ではない。現状ある強みを強化しつつ、スタッフのスキルアップなど、できることから少しずつ積み上げるほかないと考えている。
2	専門性を持ったスタッフが1名しかおらず、自閉症の理解や行動障がいへの理解がまだまだ低い。また、スタッフの高齢化が進んでいる。	法人全体として専門性習得の機会の設定ができていない。	所内研修で学びの機会を作っているが、外部の研修に参加する機会を増やしていきたい。
3			